

## 結核接触者健診における社会ネットワーク分析の活用

<sup>1,3</sup>泉 清彦    <sup>1</sup>河津 里沙    <sup>4</sup>三宅 慧    <sup>4</sup>渡部 ゆう  
<sup>2</sup>村瀬 良朗    <sup>1</sup>内村 和広    <sup>1,3</sup>大角 晃弘

**要旨：**〔目的〕社会ネットワーク分析（SNA）手法を用いて初発結核患者と接触者との接触時間が結核感染を示しうるかを検討し、情報の視覚化を試みるとともに、SNAの活用方法を検討した。〔対象と方法〕日本語学校での結核集団感染において、初発結核患者および接触者について疫学・臨床情報、および初発結核患者の主な活動場所の接触者による利用時間を収集した。SNAソフトにより接触者ごとに初発結核患者との接触時間を算出し結核感染状況との関係性を検討し、ソシオグラムを用いて図示した。〔結果〕SNAにより初発結核患者（1名）と接触者（41名）との関係性を定量的に分析した。結核と診断された接触者では中央値にして12.5倍、LTBI患者では11.5倍、非感染者と比べて初発結核患者との接触時間が長く、接触の度合いと感染・発病の関係性が見られた。また、ソシオグラムにより初発結核患者の利用場所、接触時間、感染状況に関する情報を整理できた。〔考察〕SNAの活用方法として、次の点が考えられた。①接触時間の情報は、IGRA検査等の使用量が限られている場合に優先的対象者の選定に利用する、②IGRA判定保留者への対応についての補足的情報が得られる、③感染が拡大した場所を推定し、健診対象者の拡大を検討するための情報として用いる、④情報を視覚化し関係者間のコミュニケーションのツールとして活用する。

**キーワード：**社会ネットワーク分析、結核接触者健診、結核集団感染